

宗祇法師生誕六〇〇年記念連句実作会

連名「時雨」 形式「胡蝶（二十四句）」

『四季桜』の巻 捌 小林静司

オ 四季桜生誕祝い冬を咲く

小林静司

息白くして奉納の吟

水野森雄

創作の振付けきびし舞いみせて

井上輝夫

認定書着く文化活動

ウ 渡り鳥群をなしたる月あかり

岬の馬の肥えし色つや

秋祭太鼓係に笛係

いつになく手に寄り添ってポー

喫茶店きわどい話頬を染め

柔道五段男勲章

流れ付くハングル文字のある木切れ

市民交り国境を越え

ナオ 組み立てて恐竜の骨まだ足りぬ

ジュラ紀白亜紀地層くつきり

網の目に予報の進む気象庁

コロナ失業夫（つま）に焼酎

夏の月今夜いいねの誘い待ち

大白波の島に打ち寄せ

海を見るよりも風見る吾が漁師

満票翔平金よりも上

ナウ 宇宙船キャプテン務む日本武士

積もる力は淡雪になし

勉学の切磋琢磨で花を待つ

春告鳥に心明るく

司 雄 夫 司 雄 夫 司 雄 夫 司 雄 夫 司 雄 夫 司 雄 夫 司 雄 夫 司 雄 夫 司 雄 夫 司 雄 夫 司 雄 夫 司 雄 夫 司 雄 夫

裾野連句会 令和三年十一月二十一日

於 裾野市桃園集会所